

SKYMENU 活用授業 実践レポート

お名前	井島 達哉	学校名	四日市市立富田小学校(三重県)
実施学年	小学校 5 年	教 科	社会科
単元名	わたしたちの食生活を支える食料生産 食生活を支える食料の産地		

《学びを深めたいポイント》

- ・チラシを参考にしながら産地マップを作ることで、食料にはそれぞれ産地があること、全国各地でさまざまな食料が生産されていることに気づかせ、「どんな食料が、どこで、どのくらい作られているか」という次時以降の学習課題につなげるようにする。
- ・産地マップを作る中で、食料の産地の気候や位置関係、特徴を考えるようにさせる。
- ・班で活動させることで、より多くの情報を収集し、特徴に気付かせるようにする。

《SKYMENU 活用のポイント》

- ・産地マップを作る際、発表ノートのマインドシートを使用する。従来のように大きな紙にまとめる方法も紹介し、どちらかを選択させるようにする。
- ・発表ノートでは、日本地図を背景にしておき、食料の種類ごとに色分けしたカードを都道府県とつなぎながら、産地マップを作らせる。
- ・「グループワーク」を活用することで、班のメンバー全員で作業させ、より多くの食料についてまとめさせる。

《実践内容》

	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
導 入	1. 給食等、普段食べている食料品の分類を確認する。 (農作物、水産物、畜産物、その他の具体例も示す。)		
展 開	2. 各自が持ってきたチラシやウェブ上のチラシから産地マップを作成する。		・「グループワーク」を使って各班で作業が行えるようにする。 ・マインドシートを使い、枠を広げながら自由にまとめていく。都道府県の白地図に「つなぐ」機能を使って、つないでいく。 ・産地マップを作りながら、

	3. ほかの班の産地マップと、自分の班の産地マップを見比べながら、気づいたことや疑問を交流する。		産地の特徴や、気候、位置関係を確認、次時以降の学習課題を見つけさせる。 ・完成したら（時間になったら）提出箱に提出させる。 ・交流する中で、次時以降の学習課題を見つけさせる。
まとめ	4. 次時以降の学習課題を確認し、学習の見通しをもたせる。		

《実践を振り返って》

○良かった点

- ・紙で行うのとは違って、「貼るのを間違えた、書くのを間違えた」ということでのやり直しにくさはなく、何度でもやり直すことができ、班員みんなが同時に行いやすかった。また、マインドシートなので、枠を広げながら自由に進められる点がよかった。
- ・紙で見ながらの入力も、ウェブ上のチラシを見ながらの入力（スクリーンショットでも可能）もどちらでもしやすかった。
- ・提出箱を活用することで、他の班の産地マップをいつでも見ることができ、紙より共有の面での自由度の高さも感じた。

○反省点・課題

- ・マインドシートの「つなぐ」機能ではなく、線を引かせてつながせたため、「線より直線の方がいいからやり直そう」という児童もあり、時間のロスがあった。
→各都道府県の上に透明な枠を作っておき、そこに「つなぐ」機能を使ってつなぐようにしたらよかったと感じた。
- ・海外の枠をつくる、班ではなくクラスで行う等、やり方によってはより多くの情報の詰まったマップが作れたのではないかと感じる。児童の実態や児童の声に応じて、対応するとよいと感じた。

マインドシート（発表ノート）は考えの整理がしやすいだけでなく、デジタルのよさである、何度でもやり直しやすいこと、共有しやすいことを実感した時間となった。今後も、効果的に活用できる場面はないか検討しながら SKYMENU を活用し、学習の目標が達成できるように実践を積んでいきたい。